

信頼性向上工事・非破壊検査等に伴う 第二セシウム吸着装置（サリー）停止について

<参考資料>
平成25年3月13日
東京電力株式会社

■実施概要

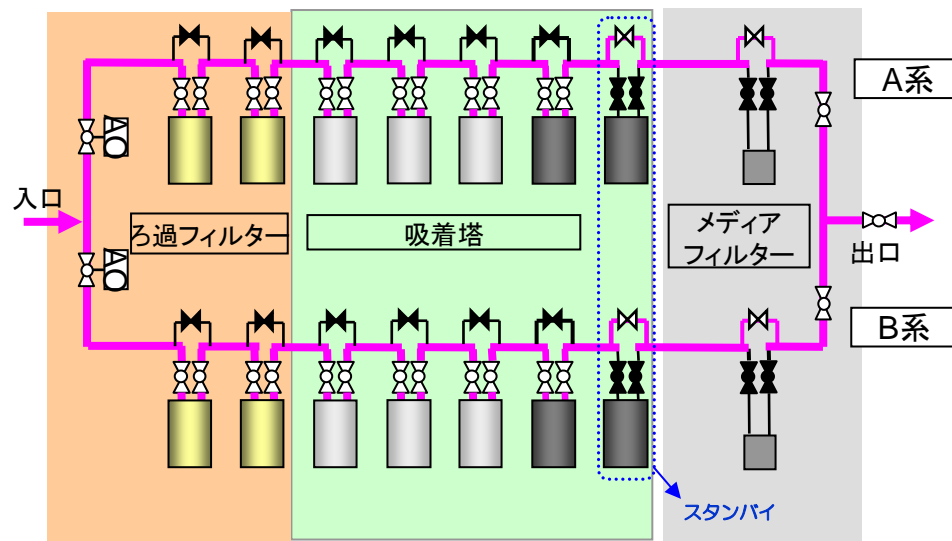
信頼性向上の観点から、サリーを停止し以下の作業を実施する。

- ・ 滞留水移送ポンプの増設工事（第二期）
- ・ 非破壊検査（経過観察）
- ・ ベント配管の改造

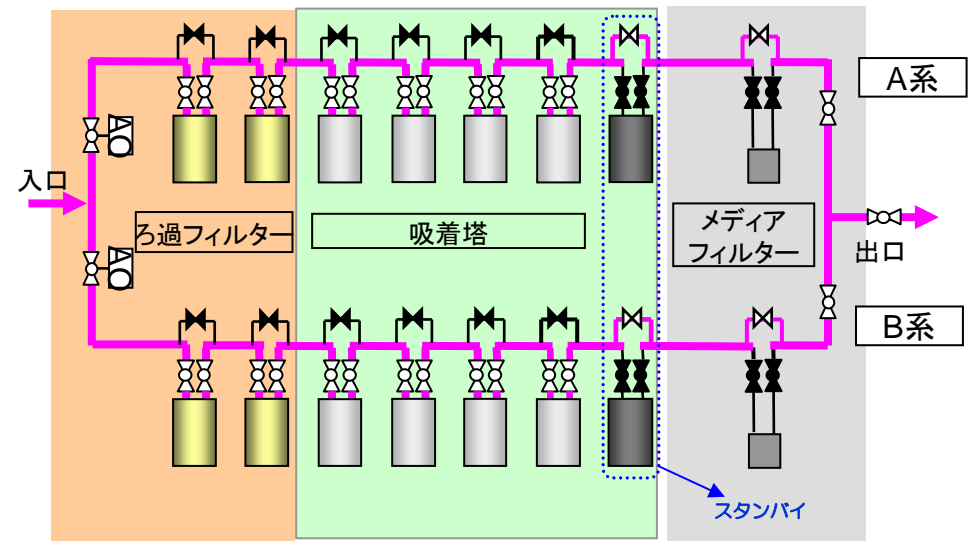
なお、サリー運転開始当初と比較し、水質条件が変化（放射能濃度及び塩化物イオン濃度の低下）していることから、サリー起動時、通水する吸着塔配列を変更する予定（下図参照）。

■工程：3月15日～3月21日（3月15日停止、3月22日起動）

期間中、サリーの運転を停止し、セシウム吸着装置にて滞留水を処理する。



サリー系統概略図（現在の吸着塔配列）



サリー系統概略図（変更後の吸着塔配列）

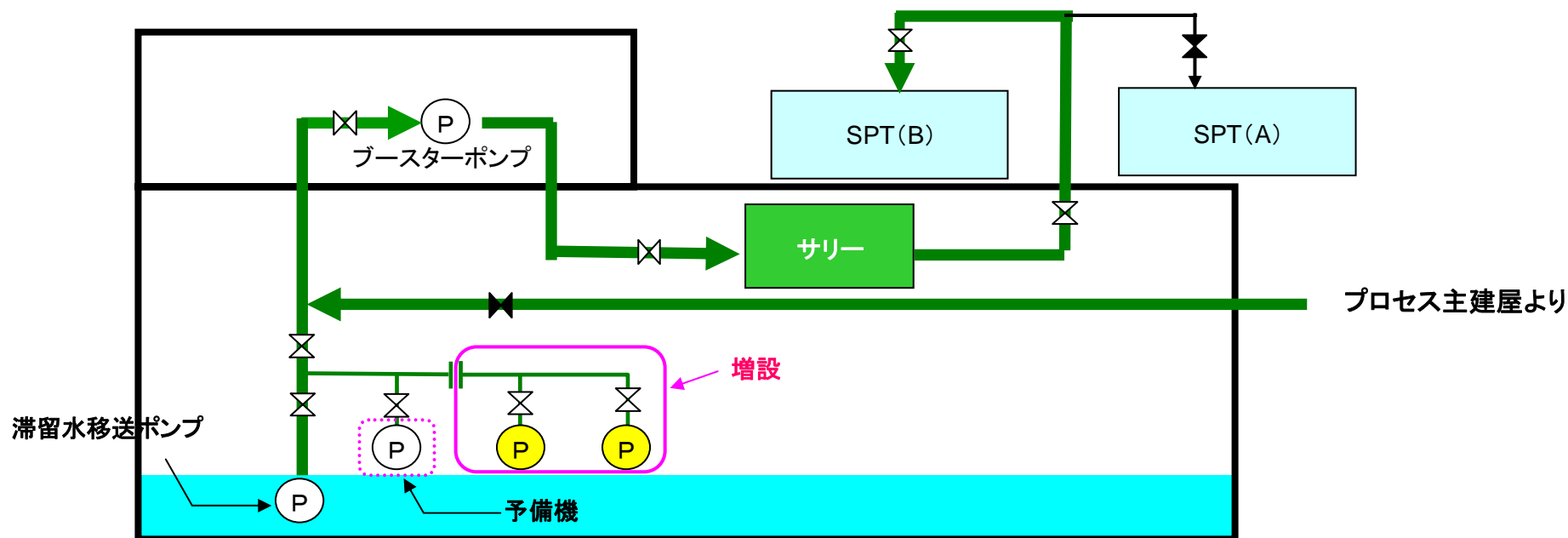
（補足）吸着塔のうち、黒で表した吸着塔は、白で表した吸着塔と比較し、塩化物イオン濃度が高い水であっても、高い吸着性能を発揮する。

1. サリー 滞留水移送ポンプの増設工事（第二期）について

■目的

高温焼却炉建屋滞留水移送ポンプ（水中ポンプ）は、その故障により、滞留水の移送に大きな支障がないよう予め2台設置（1台予備）しているが、定期的なメンテナンスが難しいことから、新たに予備機を2台設置することで、滞留水処理の信頼性向上を図る。
なお、平成25年2月に行った第一期工事において、ポンプ増設用の配管・弁を設置済み。今回の第二期工事において、ポンプ増設を行う。

■工事概略図（高温焼却炉建屋内のサリー系統概略図）



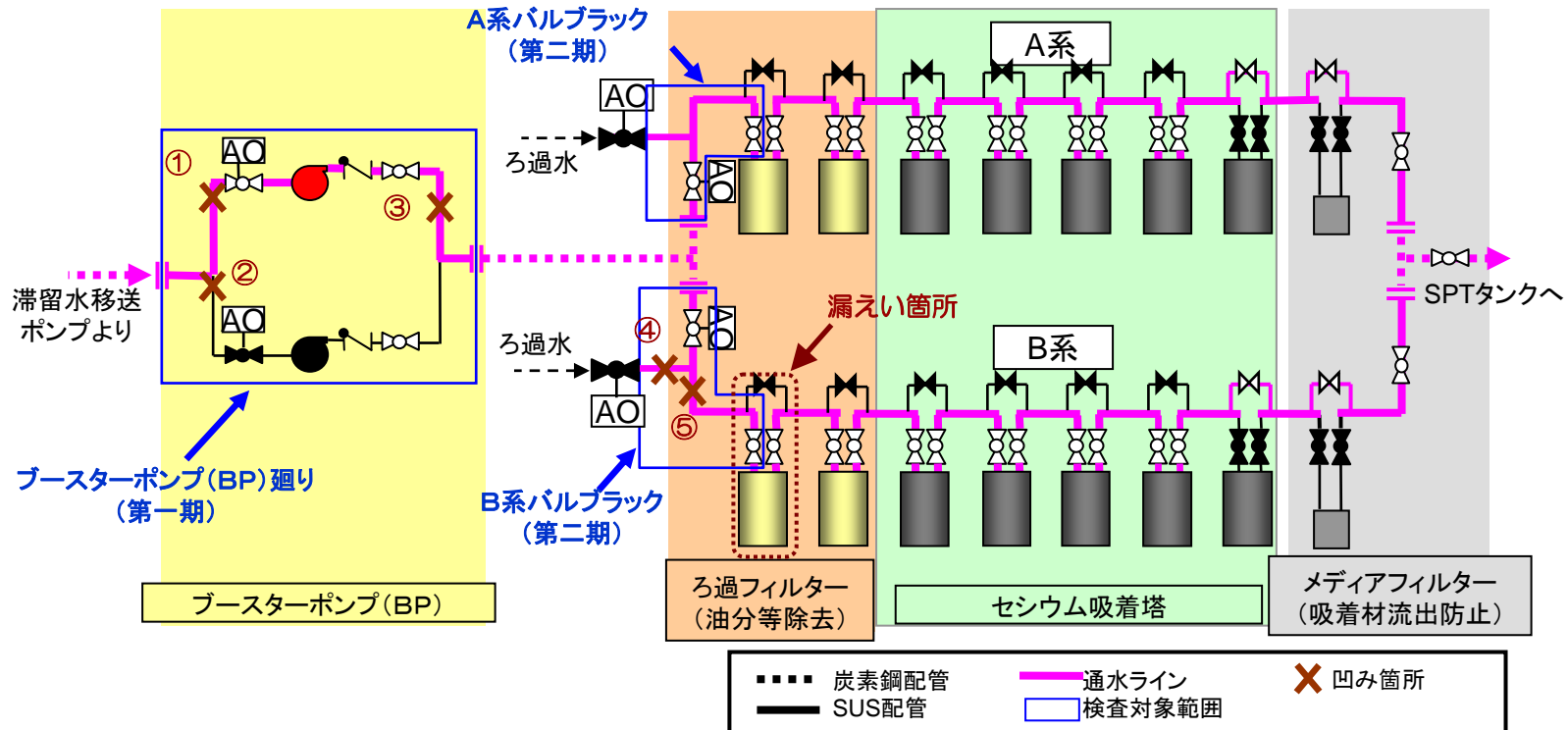
2. サリー 非破壊検査（経過観察）の実施について

■目的

平成24年2月に発生したサリーのコースフィルター出口配管溶接部近傍におけるすきま腐食による漏えい事象を踏まえ、健全性確認の観点から類似箇所の非破壊検査（RT）を実施※している。その際、溶接部に凹み（5箇所）が確認されており、今回の停止期間に経過観察（検査後約半年が経過）として、第一期に確認された3箇所（①～③）の凹みについて非破壊検査を実施する。

※検査は2回に分けて実施（[第一期（ブースターポンプ廻り）：平成24年9月～10月、第二期（バルブブラック廻り）：平成25年1月]）しており、検査の結果、有意な腐食等はなく、健全性は確保されており、サリーの運転継続に支障のないことを確認している。これらの検査において、溶接部に凹み（5箇所）を確認し、経過観察することとしていた。

■検査概略図（サリーシステム概略図）

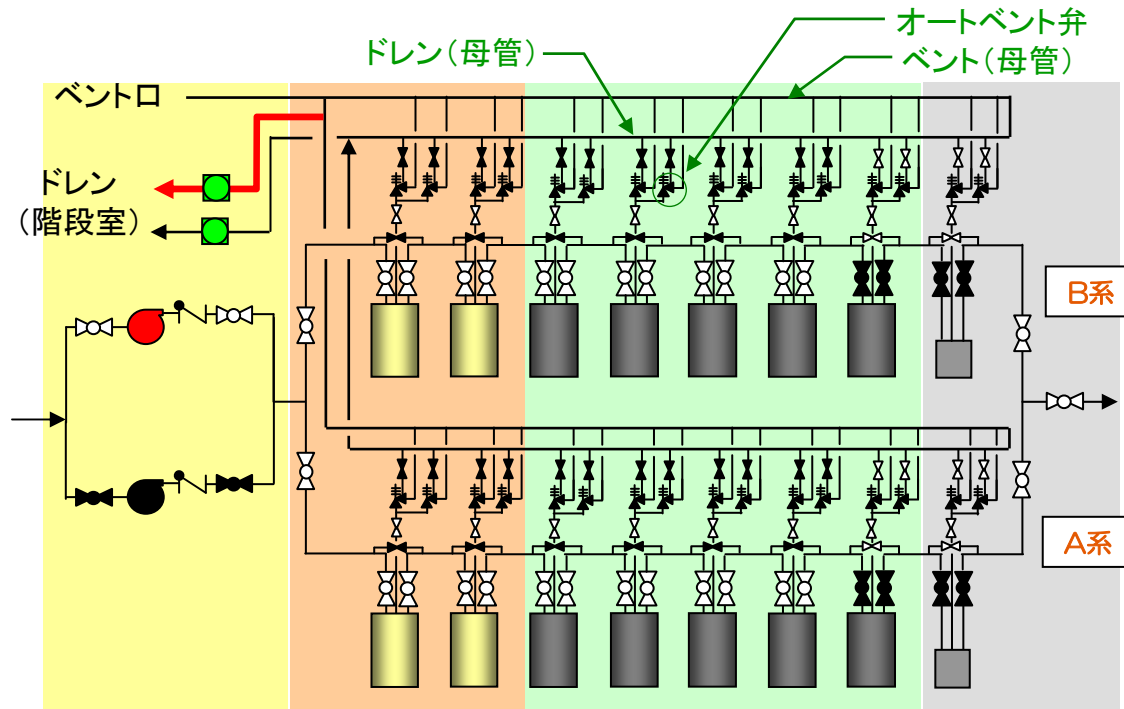


3. サリー ベント配管の改造について

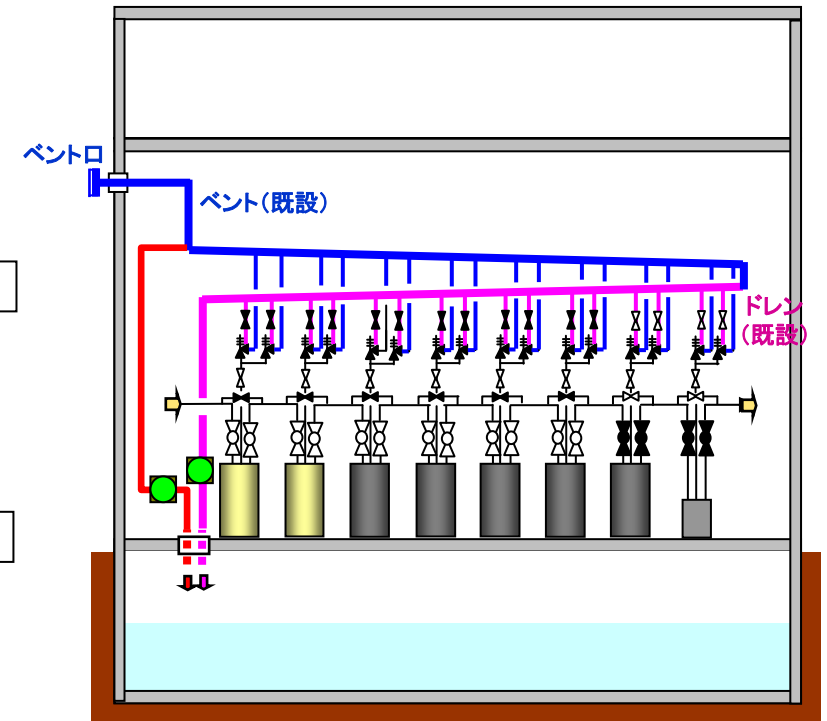
■目的

平成24年11月に、既設ドレンラインの信頼性向上工事に伴い、ドレンラインを閉止したことでベント配管が満水となり、ベント口から水が漏れいする事象が発生した。本事象を踏まえ、再発防止の観点より今回の停止期間に、新たなドレンラインを設置すると共に、ドレンラインの排水状況を確認できるサイトグラスを設置する。

■工事概略図（サリー系統概略図）



（配管配置概略図〔建屋断面〕）



- 新たなドレンラインの設置範囲
- 新たに設置するサイトグラス